

【令和3年8月20日実施】

次世代育成支援対策推進法は、急速な少子化と家庭を取り巻く環境の変化をふまえて、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、安心安全に育成される環境を整備するために制定されました。

この法律に基づき、仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業は「くるみん認定」を受け、「くるみんマーク」を商品や広告等に使用し、仕事と子育ての両立に積極的であるとアピールできます。

そこで、企業が仕事と子育ての両立を支援する対策を行うことは、社会にとってのどのようなメリットがあるかまとめてください。

また、仕事と子育ての両立支援のための「くるみん認定」の促進に向け、行政の取り組みでどのようなことが考えられるかまとめてください。

【令和3年8月23日実施】

最近、新聞等で取り上げられている「ヤングケアラー」は、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもをいいます。

公表された、初めての全国規模の調査報告書によると、世話をしている家族が「いる」と回答した子どもは、中学2年生で5.7%、全日制高校2年生で4.1%という結果となりました。その中には、世話をしているも自分のやりたいことへの影響は特にないと回答した子どもが半数いる一方で、家族への世話を「ほぼ毎日」している中高生は5割弱、一日平均7時間以上世話をしている中高生が約1割存在するという結果でした。

そこで、「ヤングケアラー」は、①どのような負担や影響を受けているのか、②「ヤングケアラー」を早期に発見するにはどのような取り組みが必要か、③どのような支援が必要とされているのか、の3点について考え、グループで話し合い、意見をまとめてください。

【令和3年8月24日実施】

社会的不安に寄り添い、深刻化する社会的な孤独・孤立の問題について総合的な対策を推進するための企画及び立案並びに総合調整に関する事務を処理することを目的として、内閣官房に、孤独・孤立対策担当室が設置され、省庁をまたがった連絡調整会議が開催されるなど、横断的な対策が求められています。

孤独・孤立には確立した定義がないものの、その背景には、いじめ、虐待、性被害、DV被害、ひきこもり、生活困窮、災害など、様々な悩みや困りごとが存在し複雑に絡み合っており、福祉の分野とも密接に関係しています。

そこで、孤独・孤立対策に関して、都道府県の福祉行政部門が進めるべき取り組みの方向性や具体的な対策について、グループで話し合い意見をまとめてください。